

【事業報告書添付資料】

# 新経営計画2019 進捗状況

(令和5年度 単年度評価)

(令和元年度から令和5年度 総合評価)



## 0 はじめに

経営計画2019は定款に定める目的を達成するため、事業活動を行うにあたり次の基本運営方針を掲げています。

### 【基本運営方針】

- 1 放流水質基準値の遵守による公共用水域の水質保全及び改善
- 2 設備・機器の計画的な点検、修繕による施設の適正管理
- 3 効果的・効率的な運転管理によるコストの縮減
- 4 関係機関との連携による危機管理のさらなる強化
- 5 県民の下水道事業に対する関心の醸成と魅力の発信
- 6 行政機関への支援

この6つの運営方針に基づき、現在、5つの事業を実施しています。

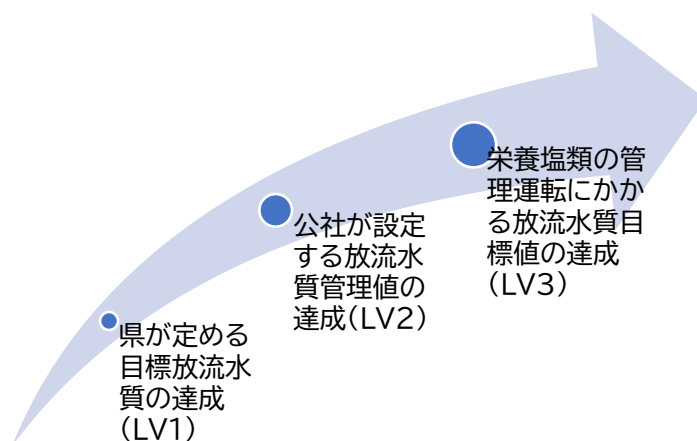
事業名	関連する基本運営方針
1 流域下水道施設維持管理事業	上記 1～4
2 調査研究事業	上記 すべて
3 普及啓発事業	5
4 研修事業	6
5 排水設備工事責任技術者認定事業	6

経営計画2019は5年後の公社がどのような姿になっているのか、事業活動の成果をどのレベルまでもっていくのか、ということを書いてあります。そのため、事業活動における取組内容を統一することはもちろんのこと、可能な限り数値目標を設定しました。

### ○目標へのアプローチ

取組内容の難易度に応じて2段階又は3段階のレベルを設定し、設定レベルをクリアしたら上位の設定レベルに取り組む、設定レベルをクリアできなければ問題点を確認し、もう一度その設定レベルに取り組む、この繰り返しにより段階的に実績を積み上げて最終的な目標に到達するという考え方で運用しています。

例：放流水質の遵守による公共用水域の水質保全及び改善



## ○取組内容の評価

各年度の取組内容については、年度末に各所属が目標達成度を評価したうえで、最終的に理事長による進捗度評価を行うこととしています。

### 【参 考】

#### 目標達成状況の算出方法と判断基準について

##### (1) 目標達成状況の算出方法

$$\text{目標達成状況} = \frac{\text{令和5年度実績値}}{\text{令和5年度目標値}}$$

※目標項目が減少を目指すものである場合には、分子・分母を逆とし、目標値を実績値で割って算出します。

##### (2) 目標達成度の判断基準について

	達成率
A 進んだ	100%以上
B ある程度進んだ	85%以上 100%未満
C あまり進まなかった	70%以上 85%未満
D 進まなかった	70%未満

※A～Dの評価は取組を所管する所属長が上記の考え方にに基づき、取組内容の中身とその難易度を考慮したうえで総合的に判断する。

##### (3) 経営計画の進捗度について

	進捗度
A 進んだ	達成度 A が100%
B ある程度進んだ	達成度 A が85%以上100%未満
C あまり進まなかった	達成度 A が70%以上85%未満
D 進まなかった	達成度 A が70%未満

#### <加減点要素>

+	定性的目標を掲げた事項の進展が著しい
-	定性的目標を掲げた事項の進展が芳しくない

(+の場合は1段階評価を上げ、-の場合は1段階評価を下げる)

※経営計画の進捗度は、理事長が上記の考えに基づき、加減点要素を考慮したうえで総合的に判断する。

# 実施事業に関する進捗状況評価

## 1 流域下水道施設維持管理事業

下水道施設を維持管理するにあたって、最も重要なことは放流水質基準値を遵守することです。このことを大前提としたうえで、公社は次のことを重視して維持管理を行っていきます。

下水道は県民の日常生活における重要なライフラインであり、施設の性格上、利用者にとっては代替性の利かない施設であることから、維持管理を担う者はいつでも下水道を利用できるように努めなければなりません。

### (1) 浄化センター運転管理業務

この浄化センター運転管理業務については、「水処理と運転コストの最適バランスを考慮した運転」（薬品等を極力使用せず、生物処理機能【微生物】を最大限活用して、放流水質基準はもとより、県が定める目標放流水質を遵守すること）を追求することを一番の目的としています。

経営計画では、処理水質を安定的にコントロールする技術を高める必要があるという認識のもと、目標とする処理水質を公社独自に設定して、その水準内に収めるよう努めることにしました。

#### ○経営計画に基づく評価

##### (1) 設定目標 (mg/L)

	BOD	COD	SS	T-N	T-P
北部	12	16	18	~15(9.1~20)	~1.2(1.3~2.1)
南部	12	16	18	~15(7.4~20)	~1.2(1.3~2.1)
志登茂川	12	16	18	~15	~1.2
雲出川左岸	12	16	18	~16(12~20)	~1.4(1.3~2.3)
松阪	12	16	18	~15(9.8~20)	~1.2(0.8~2.0)
宮川	12	16	18	~15(9.9~20)	~1.2(0.5~2.0)

※BOD・COD・SSは毎回の分析値がこの値を超えないこと

※T-N、T-P、4月から9月末までは、平均値がこの値を超えないこと、10月から3月（栄養塩管理運転対象期間）までは、平均値がカッコ内の範囲に収まること

##### (2) 目標達成度（実績値／達成度）

	BOD	COD	SS	T-N	T-P	評価
北部	11	10	12	6.9 (9.3)	0.8 (1.2)	A
南部	7.4	12	9	5.3 (8.3)	0.7 (1.2)	A
志登茂川	4.1	12	3	5.2	0.7	A
雲出川左岸	13	12	9	9.9 (13)	0.6 (0.9)	B
松阪	7.9	10	7	8.4 (11)	0.7 (0.8)	A
宮川	15	13	16	7.1 (9.1)	0.5 (0.7)	B

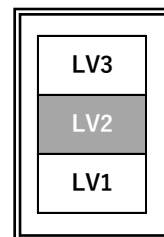
##### (3) 進捗度評価

T-N、T-Pについては、目標範囲に収めることができなかったものの、栄養塩類管理運転の試行により、過年度に比べ上昇傾向であることから総合的に判断し「B」と評価しました。（志登茂川浄化センターは初期運転中のため栄養塩類管理運転の対象外）

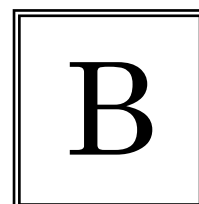
宮川において目標放流水質（協定値）を超過しましたが、大雨の影響で超過したものであり、協定値超過の対象外となります。

なお、雲出では設定目標は超過しましたが、協定値は超過しませんでした。

目標難易度



計画進捗度



## (2) 施設の保守管理業務

浄化センターの施設、設備機器は、腐食性のガス等が発生する場所など設置環境が悪く、24時間の連続運転を行うもの、汚水や酸・アルカリ性薬品を取り扱うといった稼働条件も機械設備にとって決していい環境とは言えません。また、電気・計装設備などは突然ダウンするなど、日常点検では劣化傾向を把握しにくいものもあります。

これらのことから、浄化センター機能を維持するためには、設備機器が故障する前に分解整備するなど計画的な修繕が必要であり、故障した設備機器はいち早く復旧することが重要となります。そのため、経営計画では過去の故障履歴等から修繕周期を迎えた機器類の修繕を確実にを行い、故障等の不具合発生からの迅速な復旧（事後保全）について期限を定めて実施することとしています。

限られた予算の範囲内でできる限り対応できるよう修繕計画の見直し（予算配分等）を行うとともに、修繕費用の精査を行い、修繕する内容について見直しを行うこととしています。

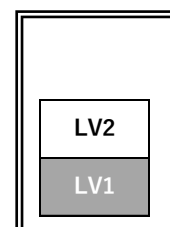
### ○経営計画に基づく評価

#### (1) 設定目標

- ・修繕計画に基づき時間計画保全を実施する。
- ・点検結果に基づく故障の兆候の早期発見に努め、機器の事後保全にかかる期限を設定して常に良好な処理機能維持を図る。

計画修繕実施率	90%以上
事後保全復旧期限	6ヶ月以内

#### 目標難易度



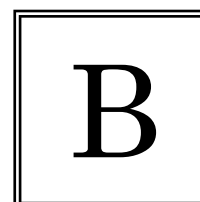
#### (2) 目標達成度（6カ月以内完了件数／不具合発生件数）

北部	52/56	92.9%	A
南部	51/57	89.0%	B
志登茂川	17/17	100%	A
雲出川左岸	63/67	94.0%	A
松阪	60/66	91.0%	A
宮川	58/59	98.3%	A
全体	301/322	93.4%	B

#### (3) 進捗度評価

故障した機器に対する6ヶ月以内の復旧については、部品納期の長期化で工事が遅れるほか修繕費用の高騰により発注が困難な状況のなか南部浄化センターを除く5浄化センターにおいて目標の90%以上を達成できたことを総合的に評価して「B」としました。

#### 計画進捗度



### (3) 汚泥処理業務

水処理の過程で発生した下水汚泥は産業廃棄物として取り扱われます。特にこの下水汚泥は臭気を発散する環境負荷の高い産業廃棄物であり、発生量も汚水処理量の増加と合わせて増え続けます。そのため、この汚泥の処理については、収集運搬から処分まで排出事業者責任が全うできる体制を構築し、かつ、できる限り有効利用を図ること、また発生量そのものの抑制を図ることが重要です。

有効利用についてはセメント原料として全量処理することが担保できたことから、経営計画の目標設定としては発生量の抑制と脱水機への負荷のバランスを考え、含水率を一定の範囲内で維持することにしました。

#### ○経営計画に基づく評価

##### (1) 設定目標

年平均の汚泥含水率を一定の範囲に収めるとともに、搬出日ごとの汚泥含水率達成を高いレベルで維持することを目標として設定しました。

目標汚泥含水率	73%~76%
目標汚泥含水率の達成状況（搬出日ごと）	90%以上/年

目標難易度

難易度  
設定  
なし

##### (2) 目標達成度（各浄化センター上段は搬出日ごとの目標汚泥含水率達成状況）

処理場名	年平均含水率	令和5年度実績	目標達成状況	達成度
北部	75.3%	307/362	84.8%	B
南部	73.7%	366/366	100%	A
志登茂川	75.2%	—	—	—
雲出川左岸	74.5%	349/366	95.4%	A
松阪	74.3%	366/366	100%	A
宮川	74.6%	362/366	99.2%	A
延べ搬出日	—	1750/1825	95.8%	B

※志登茂川浄化センターは初期運転のため対象外です。

##### (3) 進捗度評価

年平均の汚泥含水率は全ての浄化センターで目標の範囲内に収まりました。また、搬出日ごとの汚泥含水率の目標達成状況で北部浄化センターが90%未満であったことから総合的に判断し「B」と評価しました。

なお、北部浄化センターの目標未達成については、機器の老朽化により不具合が発生することが増加、稼働台数を減らし運転したことの影響で含水率が上昇しました。

計画進捗度

B

#### (4) 危機管理

近年、短時間雨量の増加、局地的豪雨、台風の大型化など風水害の影響が大きくなっており、管渠への雨水を含む「不明水」の侵入が大きな問題となっています。不明水の増加は浄化センター機能を圧迫して放流水質基準を超過するリスクが増すだけでなく、管渠内に排除しきれない汚水が滞留することで、市町幹線管渠で溢水して市街地で汚水が溢れるというリスクが高まることから、今まで以上に県及び関係市町との連携を強化していく必要があります。そのため、経営計画では、そうした連携強化を図るために大雨時の運転説明会等、現場の状況を理解できるよう関係機関の職員向けの研修を行うこととしています。

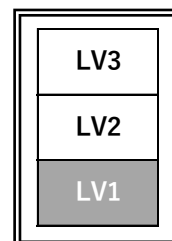
また、南海トラフ巨大地震に伴う揺れと津波への備えとして、令和2年10月に策定した下水道BCP（業務継続計画）に基づき図上・実動訓練を実施するなどして危機対応力を高めていくことにしています。

##### ○経営計画に基づく評価

###### (1) 設定目標

計画した訓練及び運転説明会の実施率を100%とする。

目標難易度



###### (2) 目標達成度（訓練実施は年1回以上）

訓練種別	北部	南部	志登茂	雲出	松阪	宮川	目標達成状況	達成度
異常流入水量にかか る伝達訓練	○						100%	A
異常流入水量にかか る図上訓練	○	○	○	○	○	○	100%	A
非常参集訓練	○（3回実施）						100%	A
大規模地震想定の図 上・実動訓練	○（2回実施）						100%	A
初期消火訓練	○	○	○	○	○	○	100%	A
水防待機時の運転説 明会	○						100%	A
関係機関向け水防待 機時の運転説明会	○	○	○	○	○	○	100%	A

###### (3) 進捗度評価

全浄化センターにおいて危機管理対応等の図上訓練及び関係職員向けの大雨運転説明会等の現場研修について計画どおり実施できました。全項目で目標を達成したことから「A」と評価しました。

計画進捗度





## (5) 周辺環境への配慮

浄化センターは臭気発生源となりうるため、汚泥搬出時には消臭剤を使用するなどの臭気抑制策を講じるとともに、定期的なチェックを行うことで臭気にかかる苦情が無いように努めることが重要です。

そのため、経営計画では期間中の臭気に関する苦情ゼロを目指すことを目標としています。

### ○経営計画に基づく評価

#### (1) 設定目標

浄化センターへの苦情をゼロにする。

目標難易度

難易度  
設定  
なし

#### (2) 目標達成度（各浄化センター）

北部	苦情ゼロ	100%	A
南部	苦情ゼロ	100%	A
志登茂川	苦情ゼロ	100%	A
雲出川左岸	苦情ゼロ	100%	A
松阪	苦情ゼロ	100%	A
宮川	苦情ゼロ	100%	A

#### (3) 進捗度評価

全浄化センターで苦情はゼロという結果から「A」評価としました。

なお、浄化センターから発生する下水汚泥を搬出する際は臭気が発生するので、引き続き定期的に臭気モニタリング調査を行い発散防止対策に取り組むとともに周辺地域の清掃活動を行い周辺環境の改善に努めます。

計画 進捗度

A

## (6) 維持管理費の縮減努力

経営計画では、コスト縮減の取組について浄化センターがバラバラに対応するよりは、効果のあった取組の水平展開のしやすさに鑑み、重点的に取り組む項目を全浄化センターで統一することにしていきます。そこで、流入水量の伸びに伴って増える経費（主に薬品、電力、汚泥処理費）をコスト縮減の対象として取り組むことにしました。流入水量あたりの使用量、発生量（原単位）が経費に与える影響が大きいことから、この原単位を管理していくことで経費を縮減するような目標設定としました。

### ○経営計画に基づく評価

#### (1) 設定目標

各浄化センターにおける流入水量に対する薬品、電力使用量及び汚泥発生量について、平成30年度（2018年度）の実績を超えないようにすること。

#### (2) 目標達成度（目標値/実績値）←削減を目標とするため実績値が分母となる。

	薬品	電力	汚泥	評価
北部	170%	103%	106%	A
南部	75%	105%	100%	C
雲出川左岸	137%	105%	97%	B
松阪	146%	96%	103%	B
宮川	239%	107%	97%	B

※志登茂川浄化センターは初期運転のため対象外です。

※100%未満となっているのは、平成30年度の実績を上回ったという意味になります。

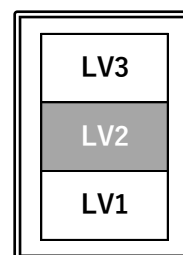
#### (3) 進捗度評価

志登茂川浄化センターを除く5浄化センターで、3項目（薬品・電力・汚泥）について原単位の抑制を実践しました。3項目全て目標を達成できたのは北部浄化センターだけという結果から総合的に「C」と評価しました。

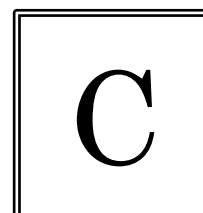
薬品については、令和4年11月に水質基準が緩和され4浄化センターで縮減できましたが、南部浄化センターにおいては処理能力に対し汚水流入量が多く生物処理の時間が十分に確保されないことでリンが上昇、それを抑えるためPAC使用量が増加したため目標を達成することができませんでした。南部については、水処理の運用方法、PACの注入基準を見直すなど縮減に努めます。

電力及び汚泥についても、目標を達成できなかった浄化センターもあるので、ノウハウの共有をはかるなど目標達成に向けた改善に努めます。

#### 目標難易度



#### 計画進捗度



## 2 調査研究事業

当社が実施する調査研究事業は、日常的に実施する流域下水道施設の維持管理を効果的・効率的に行うための調査研究が主体です。近年、日本水環境学会や下水道研究発表会において研究成果を発表したり、下水道協会誌に研究論文が掲載されたりしていますが、今後は大学等の研究機関とも連携し、汚水処理技術のさらなる改善に関する研究などに取り組みます。

### (1) 水質保全に関する調査研究

近年、海域での栄養塩類の供給のため処理施設での能動的な管理運転が期待されています。下水道処理施設から放流される放流水中の栄養塩類について注目が集まっており、当会社においても優先すべきテーマとして調査研究を行いました。

#### ○経営計画に基づく評価

##### (1) 設定目標

栄養塩類（窒素又はリン）管理運転に関する知見を得るための調査・研究を行う。

研究への着手	令和元年度（2019年度）まで
研究成果のまとめ	令和5年度（2023年度）まで

目標難易度

難易度  
設定  
なし

##### (2) 目標達成度

##### 【各浄化センターの着手状況】

浄化センター	調査研究対象	着手年度
雲出川左岸浄化センター	窒素 リン	令和元年度（2019）～ 平成30年度（2018）～
北部浄化センター	窒素 リン	令和4年度（2022）～ 令和元年度（2019）～
南部浄化センター	窒素 リン	令和4年度（2022）～ 令和元年度（2019）～
宮川浄化センター	窒素 リン	令和4年度（2022）～ 令和元年度（2019）～
松阪浄化センター	窒素 リン	令和4年度（2022）～ 令和2年度（2020）～

##### (3) 進捗度評価

平成30年度（2018年度）に雲出川左岸浄化センターのリン管理運転に始まり、現在は志登茂川浄化センターを除く全ての浄化センターにおいてリン及び窒素管理運転の試行を行い、当初の計画の目標どおり研究成果を取りまとめることができたことから「A」と評価しました。

計画進捗度

A

## (2) 運転技術にかかる調査研究

流入水質の変動（供用区域の拡大、事業所の接続等）、流入水量の増加による施設の追加稼働、また、設備・機器の更新や雨天時浸入水（不明水）量の増加、さらなる省エネ推進等、新たな課題が生じてきており、従来の管理ノウハウだけでは対応が難しくなっていることから、それらを解決するための調査研究を行いました。

### ○経営計画に基づく評価

#### (1) 設定目標

公社内外に対する 研究成果の発表	3回以上／5年
---------------------	---------

目標難易度

難易度  
設定  
なし

#### (2) 目標達成度

【着手している調査研究内容と成果報告】

浄化センター	調査研究対象	成果報告
南部浄化センター	紫外線照射量と殺菌効果	令和元年度 (2019年度)
宮川浄化センター	年末年始の窒素上昇対策	令和4年度 (2022年度)
雲出川左岸浄化センター	ログデータ整理システム に関する研究	令和4年度 (2022年度)

#### (3) 進捗度評価

令和5年度は新たな調査研究への取組みは行われませんでした。目標（3回／5年間）を達成したことから「A」と評価しました。

今後は、令和4年から始まった「取組等に関する報告会」と令和5年に改訂した「公社職員の調査・研究にかかる支援制度実施要綱」を活用し、職員の中から様々な調査研究が生まれるよう組織全体で努めます。

計画進捗度

A

### 3 普及啓発事業

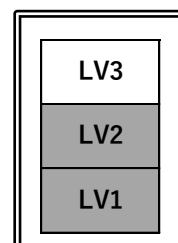
日常生活においてひとたび下水道への接続が行われると、家庭から出された生活排水は、誰の目にも触れずに下水道を流れ、知らないうちに浄化センターで処理されていくこととなります。つまり、人々は生活排水と直接関わらずに快適な生活を送れるようになるため、いつしか、下水道に対する関心は薄れ、下水道は「自分と関係ないもの」となってしまいがちです。

そこで公社では、下水道事業は遠いどこかで行っているものではなく、何かが起こればすぐに自分の生活にはね返る「とても身近なもの」という感覚を持ってもらえる、また県民の下水道への関心が高まり、さらには下水道事業に対する県民の理解と協力が得られる状況を創り出していくための取組を実施していきます。

#### ○経営計画に基づく評価

##### (1) 設定目標

- ①浄化センター見学者数 5,000人以上 とする。
- ②生徒・学生(中学・高校・大学)向けの出前講座、市民講座を年1回以上開催する。



##### (2) ①目標達成度(浄化センター見学者数)

北部浄化センター	2,785人	雲出川左岸浄化センター	510人
南部浄化センター	1,541人	松阪浄化センター	661人
志登茂川浄化センター	260人	宮川浄化センター	825人
目標	5,000人	合計	6,582人

##### ②目標達成度(出前講座、市民講座)

県立相可高校 食物調理科1年生 37名 1回開催

##### (3) 進捗度評価

令和5年度から当公社ホームページから施設見学の予約ができるシステムの運用を開始、施設見学者数も6,582人で目標を達成したことを評価しました。

##### ①計画進捗度



令和5年度も県立相可高校食物調理科1年生の生徒37名に対し、出前講座を開催しました。家庭基礎の枠で令和2年度から継続して実施できていることも合せ評価しました。

##### ②計画進捗度



#### 4 研修事業

地方自治体の下水道担当職員は平成9年度（1997年度）をピークに著しく減少しており、維持管理の現場からは職員がどんどん引き揚げられています。そのため、公社では県職員や関連市町職員に対する技術的な研修を行います。

さらに、有為な人材を確保するための一環として、県内の現役中学生や高校生を中心に公社の実務を体験する「インターンシップ制度」を活用して、将来世代に対して下水道技術者を目指すきっかけとなるような取組を実施します。

なお、自治体職員向けの現場研修に関する目標は「1 流域下水道施設維持管理事業 4 危機管理」と重複するため、ここではインターンシップ研修に関する進捗評価を行います。

##### ○経営計画に基づく評価

###### (1) 設定目標

インターンシップ研修生 延べ50人以上（5年間）

目標難易度

難易度設定  
なし

###### (2) 目標達成度

年度	所属		人数
令和元年度	北部	高等学校	4名
	松阪	中学校	3名
令和2年度	雲出川左岸	高等学校	5名
	北部	高等学校	1名
令和3年度	北部	高等学校	5名
令和4年度	北部	高等学校	2名
令和5年度	雲出川左岸	高等技術学校	4名
累 計			24名

令和5年度は、新規インターンシップ研修生（以後、「研修生」という。）の獲得に向け啓発を行ったところ津市内の高等技術学校から4名の受け入れにつながりました。一方、これまで継続していた北部浄化センターの研修生（高校生）は申し込みがありませんでした。継続の途絶えた研修生の受入れ再開と新規研修生の獲得に向けた啓発を継続します。

###### (3) 進捗度評価

この5年間の累計が24名と全体計画（50名）の48%しか達成できませんでした。この5年は新型コロナウイルス感染症の影響を受けインターンシップ研修生の確保が困難となったこともあり目標を達成することができませんでした。

今後は、新規インターンシップ研修生の獲得に向け中断していた、学校に対して啓発を行い実施につながるよう努力します。

計画進捗度

D

## 新経営計画 2019 評価（令和元年度から令和5年度）

### 1 流域下水道施設維持管理事業

#### （1）浄化センター運転管理業務

放流水質に関する考え方が「水質の保全」から「水質の保全と豊かな海の両立」へと、2019版以前のものから大きく変化する中で2019版においては、窒素・リンを放流水質中にできるだけ残存させるという栄養塩類管理運転の取り組みを進めてきました。具体的には浄化センターごとに放流水質管理値（上限値と下限値）を設定し、放流水質の数値がその範囲内に収まるよう運転管理を行ってきたところであり、これについては総じて各浄化センターにおいて放流水質の安定化に向けた取組を進めることができたと総合的に評価し「B」としました。

#### ○ 経営計画2019（浄化センターの運転管理業務）設定目標

BOD・COD・SSは毎回の分析値が表内の値を超えないように管理  
T-N・T-Pは年平均がこの範囲内に収まるよう管理

	BOD	COD	SS	T-N	T-P
北部	12	16	18	7.2~1.4 (20)	0.7~1.3 (2.1)
南部	12	16	18	5.3~9.0 (20)	0.6~1.2 (2.1)
志登茂	12	16	18	5.4~18	0.8~2.4
雲出	12	16	18	10~17 (20)	1.0~1.5 (2.3)
松阪	12	16	18	8~9.5 (20)	0.5~0.9 (2.0)
宮川	12	16	18	6.6~9.5 (20)	0.4~0.9 (2.0)

※ T-N・T-Pのカッコ内の値は栄養塩類管理運転対象期間（10月から3月まで）

#### ○ 令和元年度から令和5年度の計画進捗度

令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	総合
—	B	B	B	B	B

#### ○ 経営計画2024（浄化センターの運転管理業務）設定目標 放流水質管理値一覧

	BOD	COD	SS	T-N	T-P
北部	~14	~18	~20	~15 (9.1~20)	~1.2 (1.3~2.1)
南部	~14	~18	~20	~15 (7.4~20)	~1.2 (1.3~2.1)
志登茂	~14	~18	~20	~15	~1.2
雲出	~14	~18	~20	~16 (12~20)	~1.4 (1.3~2.3)
松阪	~14	~18	~20	~15 (9.8~20)	~1.2 (0.8~2.0)
宮川	~14	~18	~20	~15 (9.9~20)	~1.2 (0.5~2.0)

## (2) 施設の保守管理業務

不具合発生に迅速に対応するため、復旧期限にかかる数値目標を設定して取組を進めました。近年は一部の部材を中心に調達期間が大幅に伸びていることもあり、目標達成が極めて困難な状況も発生しているなか、概ね目標を達成できたと判断して「B」と評価しました。

なお、修繕費費用の高騰する中で資金確保が十分にできず、計画した修繕工事が実施できないことも多く、これらについては今後の課題となります。

### ○ 経営計画2019（施設の保守管理業務）設定目標】

事後保全復旧期限	6ヶ月以内
----------	-------

### ○ 令和元年度から令和5年度の計画進捗度

令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	総合
B	B	A	B	B	B

### ○ 経営計画2024（施設の保守管理業務）設定目標

対応方針の決定期限	1カ月以内
-----------	-------



### (3) 汚泥処理業務

公社の汚泥処理の基本方針である「安定的かつ排出者責任を全うできる形で処理すること」及び「発生汚泥全量を有効利用できる手法を採用すること」については、目標どおり達成することができました。

また、脱水機への負荷を軽減すべく設定した、汚泥含水率にかかる目標数値を維持する技術についても概ね確立できたと総合的に判断して「A」と評価しました。

#### ○ 経営計画2019（汚泥処理業務）設定目標

目標汚泥含水率	73%～76%
目標汚泥含水率の達成状況（搬出日ごと）	90%以上/年

#### ○ 令和元年度から令和5年度の計画進捗度

令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	総合
A	A	A	A	B	A

#### ○ 経営計画2024（汚泥処理業務）設定目標

目標汚泥含水率	71～76%
目標汚泥含水率の達成状況	90%以上

#### (4) 危機管理

令和2年10月に下水道BCPを全面的に改めて「下水道業務継続計画（下水道BCP）～災害対応マニュアル～」を策定し、これに基づき様々な訓練を計画、実施しました。

ただし、この5年の間には、思いもよらなかった新型コロナウイルス感染症がまん延し、感染拡大防止のため集合研修ができない期間もあり目標を達成できない年もありましたが、令和3年2月に新型コロナウイルス感染症の対策として「下水道業務継続計画（下水道BCP～感染症対応マニュアル～」を策定後は着実に目標を達成していることを、総合的に判断し「B」と評価しました。

##### ○ 経営計画2019（危機管理）設定目標

計画した訓練及び運転説明会の実施率を100%とする。

訓練種別	対象	頻度
異常流入水量にかかる伝達訓練	公社全体	年1回以上
異常流入水量にかかる図上訓練	所属ごと	年1回以上
非常参集訓練	公社全体	年1回以上
大規模地震想定を図上訓練・実動訓練	公社全体	年1回以上
初期消火訓練	所属ごと	年1回以上
水防待機時の運転説明会	公社全体	年1回以上
関係機関向け水防待機時の運転説明会	所属ごと	年1回以上

##### ○ 令和元年度から令和5年度の計画進捗度

令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	総合
B	C	B	A	A	B

##### ○ 経営計画2024（大雨等への対応）設定目標

訓練種別	対象	頻度
異常流入水量にかかる伝達訓練	公社全体	年1回以上
異常流入水量にかかる図上訓練	所属ごと	年1回以上
水防待機時の運転説明会	公社全体	年1回以上
関係機関向け水防待機時の運転説明会	所属ごと	年1回以上

※ 経営計画2019版であった「非常参集訓練、大規模地震想定を図上訓練・実動訓練、初期消火訓練」は下水道BCP（災害対応マニュアル）に基づき実施

### (5) 周辺環境への配慮

2019版では、浄化センターに対する「臭気とゴミ」に対する苦情ゼロの目標を5年間継続して達成できたことから「A」と評価しました。

ただし、当初から掲げている臭気モニタリングや周辺の清掃活動を実施していない浄化センターも見受けられたため、中間見直しで改めてこの取組みを徹底したところ、令和5年度は全ての浄化センターにおいて実施することができました。

○ 経営計画2019（周辺環境への配慮）設定目標

浄化センターへの苦情	0件/5年
------------	-------

○ 令和元年度から令和5年度の計画進捗度

令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	総合
A	A	A	A	A	A

○ 経営計画2024（周辺環境への配慮）設定目標

臭気モニタリング	月1回以上
清掃活動	月1回以上

## (6) 維持管理費の縮減努力

電気代をはじめとする物価高騰など、コスト面から見た公社を取り巻く状況には非常に厳しいものがありました。2019版で設定した電力使用量原単位 (kWh/m<sup>3</sup>)、薬遺品使用量原単位 (kg/m<sup>3</sup>)、汚泥処理原単位 (トン/m<sup>3</sup>) については、年度により浄化センターにおいて全ての項目を達成することができたとはいえないことから、維持管理費に対する縮減努力が見られたものの総合的に「C」と評価しました。

### ○ 経営計画2019 (維持管理費の縮減努力) 設定目標

電力使用量原単位 (kWh/m <sup>3</sup> )	2018年度実績を超えないこと
薬品使用量原単位 (kg/m <sup>3</sup> )	
汚泥発生量原単位 (トン/m <sup>3</sup> )	

※ 各浄化センターにおける流入水量に対する薬品、電力使用量及び汚泥発生量について、平成30年度実績を超えないようにすること。

### ○ 令和元年度から令和5年度の計画進捗度

令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	総合
B	C	C	D	C	C

### ○ 経営計画2024 (維持管理費の縮減努力) 設定目標

電力使用量原単位 (kWh/m <sup>3</sup> )	令和5年度 (2023年度) 実績を超えないこと
薬品使用量原単位 (kg/m <sup>3</sup> )	
汚泥発生量原単位 (トン/m <sup>3</sup> )	

## 2 調査研究事業

### (1) 水質保全にかかる調査研究

中間年度に2019版の目標を見直し、志登茂川浄化センターを除く全ての浄化センターで栄養塩類管理運転を「研究への着手」段階から「試行運転の実施」段階への進められたことは大きな成果であり、その後も研究を推し進め、令和5年度末には当初の目的どおり研究成果をまとめることができたことから「A」と評価しました。

なお、この調査研究は2019版をもって終了とし、今後は、浄化センター運転管理業務の中にその成果を反映させていくこととしています。

#### ○ 経営計画2019（調査研究事業）設定目標

研究への着手	2019年度まで
研究成果のまとめ	2023年度まで

#### ○ 令和元年度から令和5年度の計画進捗度

令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	総合
A	A	A	A	A	A

## (2) 運転管理技術にかかる調査研究

2019版の当初計画では「コスト抑制運転技術にかかる調査研究」としてスタート、1年目には2件の調査研究に取り組みましたが、テーマを絞りすぎていたこともありその後、新たな調査研究への取り組みは行えていませんでした。このため、中間見直しにおいて「運転管理技術にかかる調査研究」に改めたところ、令和4年6月から取組等に関する報告会（取組等報告会）での報告をきっかけに新たな調査研究に取り組むことができ、5年間で設定した目標を達成することができたことから「A」と評価しました。

なお、職員の中から様々な調査研究に取り組むことを組織全体で支援する体制を整える必要があることから令和5年3月には「公社職員の調査・研究にかかる支援制度実施要綱」を制定しました。

### ○ 経営計画2019（運転管理技術にかかる調査研究）設定目標

公社内外に対する研究成果の発表	3回以上／5年
-----------------	---------

### ○ 令和元年度から令和5年度の計画進捗度】

令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	総合
A	D	D	A	A	A

### ○ 経営計画2024（調査研究事業）設定目標

取組報告会の開催	3回/以上
成果発表会における研究成果の発表	2件以上/年

### 3 普及啓発業務

#### (1) 施設見学者増への取組

新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けたにもかかわらず、数値目標を概ね達成することができました。これはコロナ禍でも見学ガイドラインを定め受け入れたことや、見学予約システムの構築など職員の努力の賜物として総合的に判断し「A」と評価しました。

#### ○ 経営計画2019（施設見学者増への取組）設定目標

浄化センターの見学者目標受入れ数	5,000人/年
------------------	----------

#### ○ 令和元年度から令和5年度の計画進捗度

令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	総合
B	A	A	A	A	A

※ 令和2年度は目標に届きませんでした。4月から7月末まで新型コロナウイルス感染症拡大防止のため見学者の受入を一時停止していたことを勘案して評価しています。

#### ○ 経営計画2024（施設見学者増への取組）設定目標

浄化センターの見学者目標受入れ数	5,000人以上/年
施設見学（小学校）アンケート満足度	100%

## (2) 出前講座、市民講座の開催

令和元年度は、出前講座等の実施には至りませんでした。高校生を対象に開催に向けた準備・調整を行い、令和2年度からは継続して実施できていることを総合的に判断して「A」と評価しました。

### ○ 経営計画2019（出前講座、市民講座の開催）設定目標

生徒・学生（中学・高校・大学）向けの出前講座、市民講座目標実施数	1回以上/年
----------------------------------	--------

### ○ 令和元年度から令和5年度の計画進捗度

令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	総合
C	A	A	A	A	A

### ○ 経営計画2024（出前講座の開催）設定目標

児童・生徒・学生（小学校・中学校・高校等）向け出前講座 目標実施数	30回以上/年
出前講座アンケートの満足度	100%



#### 4 研修事業

##### 研修事業

2019版では対象校の拡大を目指して取組を開始しましたが、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、5年間で24名と目標を達成できなかったため「D」と評価しました。

なお、本取組は若い世代に就職の選択肢の一つを提供するという意味からも、また、普及啓発という意味からも辛抱強く実施していく必要があると考えており、未実施の高校とも情報交換を絶やさないよう努めます。

○ 経営計画2019（研修事業）設定目標

職業体験目標受入れ数	延べ50人以上／5年
------------	------------

○ 令和元年度から令和5年度の計画進捗度

令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	総合
C	D	D	D	D	D

○ 経営計画2024（研修事業）設定目標

現場実務研修会兼職員意見交換会	1回以上/年
職業体験研修目標受入れ数	30人以上／5年
下水道事業関係職員委向けの研修会の開催	1回以上/年